

# う

## うまい・へた そんな評価は 意味皆無

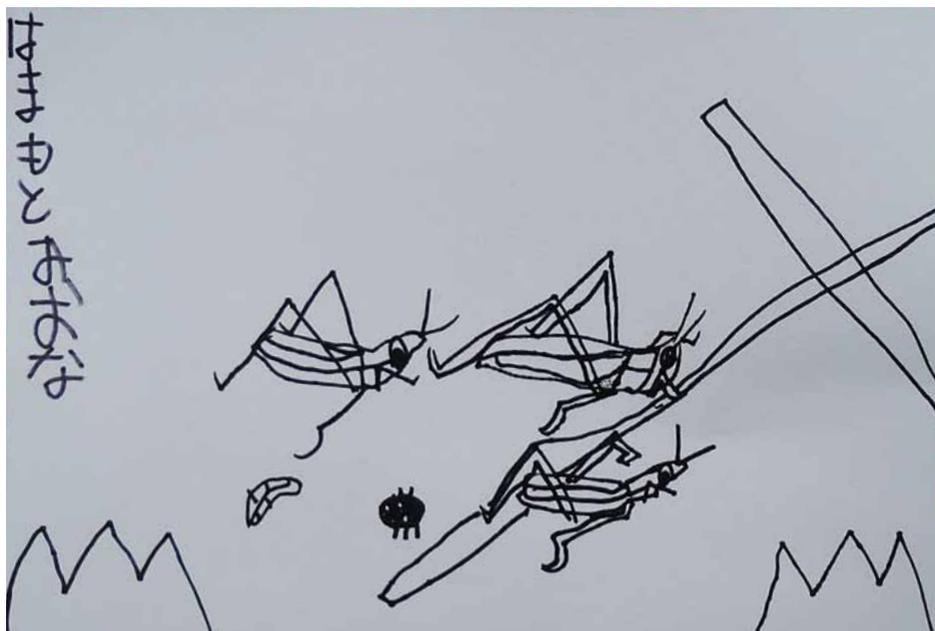
Keyword : いい絵, 評価, 表出 (表現)

見栄えのする作品をつくらせることが目的であれば、常時、上手下手（これとて基準は曖昧ですね）で評価し子どもの意識に呪縛をかけ教師の「思い」にそった絵を描かせる指導を精一杯展開すればよいでしょう。しかしこれは明らかに間違いです。

学校等における美術教育は指導者の「思い」を子どもたちに再現させることではありません。子どもの「思い」を大切に主体的に追求させる過程を通して“絵（作品）”ではなく“ひと（脳）”を育てることが究極の目的であることをわきまえなければなりません。「子どもの思い」という言い回しも要注意です。なぜなら教師や大人によって「思い込まされた思い」が子どもの「思い」のほとんどだからです。

美術教育における評価は徹頭徹尾“人づくり（脳形成）”に向かうものでなければなりません。その文脈を基底においた評価観あるいは評価法は未だ確立していません。

採用した、はまもとみおなさん（下掲）や、しまのまさやくん（右頁）の「ばった」は、保育所のお友達とさわやかな秋の空気を味わいながらの散歩中、草むらにいたたくさんのお虫といっばい遊んだことを絵にしました。チゼックの名言を思い出しました。いわく「みたことよりも知っていることを表現する」次ページの旭くん（3歳）は精一杯の自画像をかいたとのこと。それぞれ無理のないさわやかな「いい表現」だと私は思います。



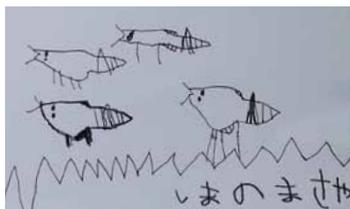
ばった / 4歳児 / 坂保育所



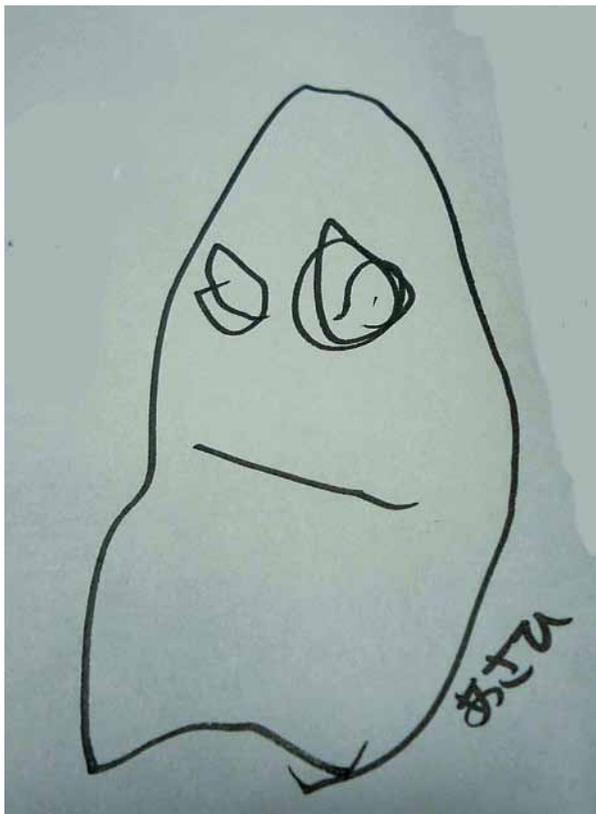
チョーク de アート (大学生)



学生の“造形遊び”



4歳児/坂保育所



旭くんの自画像



若元先生/東雲小学校2年生



想画/東雲小学校6年生